

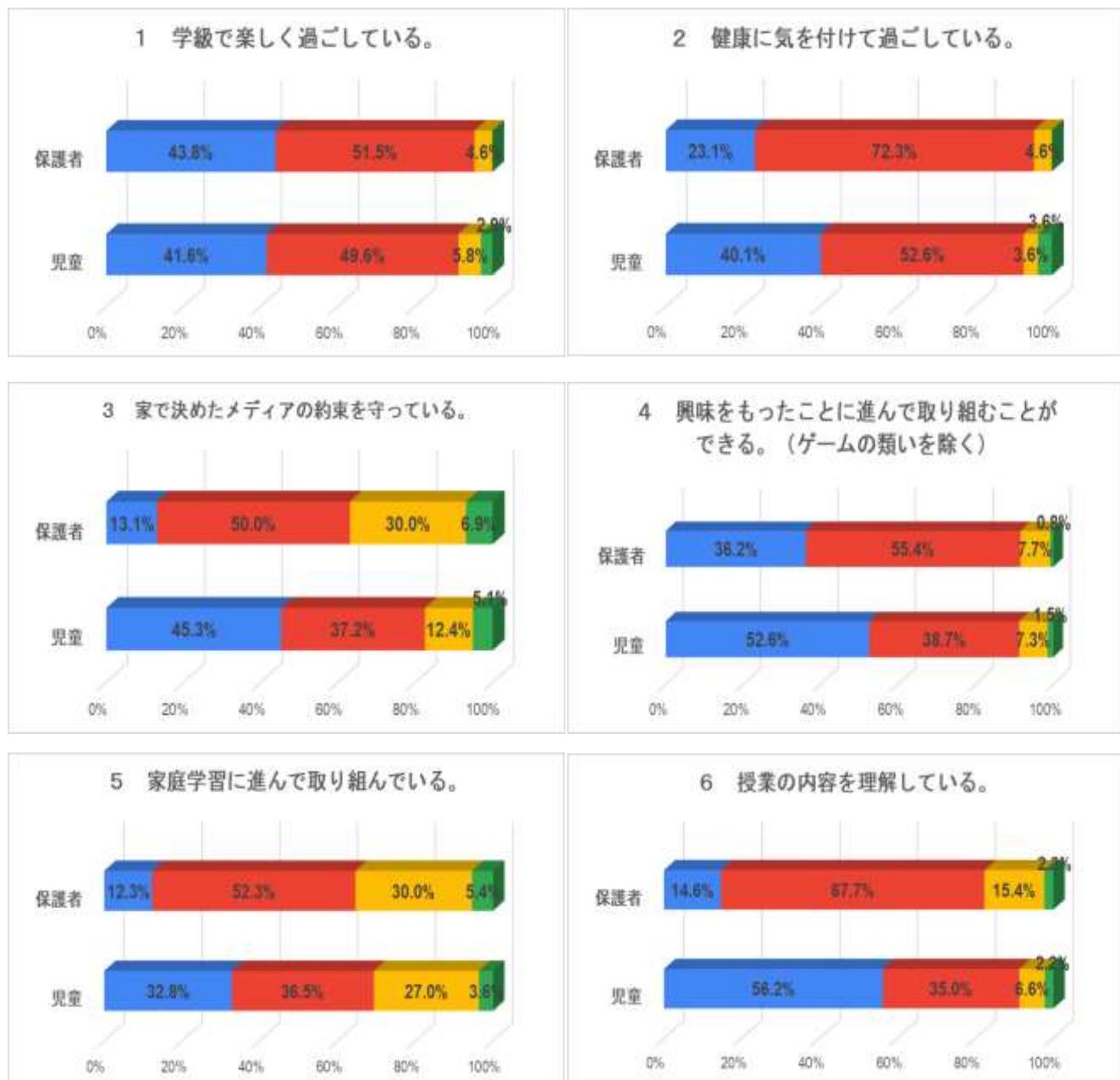
## アクションプラン（6・7月）の結果及び学校評価アンケート（一学期）を踏まえた考察

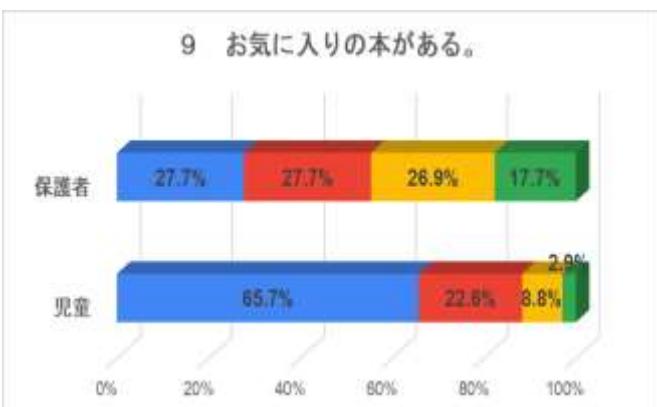
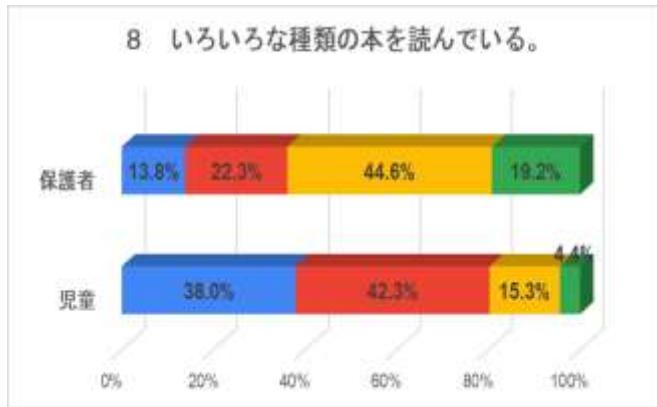
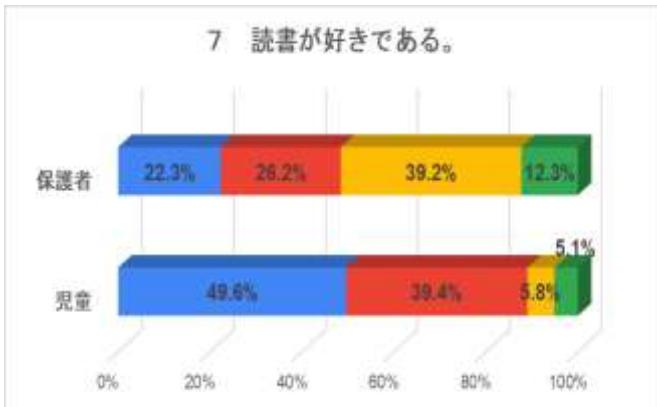
富山市立水橋西部小学校

保護者アンケート及び児童アンケートの集計結果を報告いたします。子供たちは、1学期の生活を振り返り、保護者の皆様にはお子さんの様子から感じられたことについて回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

各項目について、児童、保護者の「とてもそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそうとは思わない」「思わない」の割合を以下のとおりグラフに示しました。各項目の上段は保護者、下段は児童の結果を表しています。

とてもそう思う。　まあまあそう思う。　あまりそうとは思わない。　思わない。





今年度、水橋西部小学校では、学校教育目標「仲間と関わり合い、暮らしをよりよくしていこうとする子供の育成」に向かって、(1)「『学校が楽しい』と思う子供の育成」、(2)「自主的に学習に取り組もうとする子供の育成」、(3)「本に親しみ、読書が好きだという子供の育成」に重点を置き、取り組んでいます。

1学期のアクションプランの結果を、学校評価の結果を基に考察しました。

### (1) アクションプラン①

共通課題 (数値目標)	出席率を 99.0 %にする。
向上目標	「学校が楽しい」と思う子供を増やす。

4月	5月	6月	7月
99.0%	98.7%	97.8%	97.0%

#### ○ アクションプランの結果 (出席率より算出)

- ・達成できたのは4月のみ。5月、6月、7月ともに目標を到達できませんでした。
- ・学期末に向かうにつれ、出席率が低下しました。

#### ○ 学校評価による考察及び2学期の取組

- ・「1 学級で楽しく過ごしている」と答えた児童は 91.2%、保護者は 95.3% でした。どちらも 90% 以上だったことから、1学期の間、楽しく過ごせていたことがうかがえます。また、「6 授業の内容を理解している」と答えた児童は 91.2%、保護者は 82.3% いたことから、楽しく過ごせていた理由の一つには、学習内容が「分かる」喜びもあると考えました。子供たちは、学校での大半を学習して過ごします。このことからも、2学期は、さらに教材研究や単元の工夫を図り、楽しい授業を推進してまいります。また、授業以外の時間も充実したものとなるよう、児童会活動の活性化を図ります。

- ・「2 健康に気を付けて過ごしている」と答えた児童は 92.7%、保護者は 95.4% でした。その一方で、「3 家で決めたメディアの約束を守っている」と答えた児童は 82.5%、保護者は 63.1% でした。これらのことから、メディアコントロールをすれば、より健康に過ごすことにつながると考えました。今後、メディアコントロールについても家庭との連携をより強化するために、メディアコントロール週間の設定等、家庭で決めた約束を守る意識を高めるような取組をしていきたいと思います。

(2) アクションプラン②

独自課題 (数値目標)	家庭学習で、低学年は30分、中・高学年は自己目標時間を達成する子供の割合を80%以上とする。
向上目標	自主的に学習に取り組もうとする子供を増やす。

6月	7月
46.0%	58.0%

○ アクションプランの結果（連絡帳での自己評価より算出）

- ・6月、7月ともに目標を達成できませんでした。
- ・わずかながら、達成者の割合は上昇しました。

○ 学校評価による考察及び2学期の取組

- ・「4 興味をもったことに進んで取り組むことができる」と答えた児童は91.3%、保護者は91.6%でした。どちらも、90%以上だったことから、興味のあることを見付けることができれば、進んで取り組む態度につながるのではないかと考えました。2学期は、各教科において単元の終末に、児童が興味をもつような発展的な内容を紹介したり、日常生活の中で生まれる「はてな」を大切に投げかけたりして、児童が進んで自主学習に取り組んでいくことができるよう支援していくたいと思います。
- ・「5 家庭学習に進んで取り組んでいる」と答えた児童は69.3%、保護者は64.6%でした。6月、7月の家庭学習自己目標達成者の結果と比べると、自己目標達成者の割合の方が10%～20%程度低いことが分かります。上に述べた「4 興味をもったことに進んで取り組むことができる」と答えた児童、保護者の結果とも併せて考えると、継続して取り組むことに苦手意識があるのかもしれません。2学期は、自分で決めた目標に向かって粘り強く取り組む態度を育てる手立てを講じていきます。

(3) アクションプラン③

独自課題 (数値目標)	図書室で借りる本の自己目標冊数を達成する子供の割合を80%以上とする。
向上目標	本に親しみ、読書が好きだという子供を増やす。

6月	7月
67.9%	29.3%

○ アクションプランの結果（目標冊数から毎月の目安を設定して算出）

- ・6月、7月ともに目標を達成できませんでした。
- ・7月になると、達成者の割合が大幅に減少しました。

○ 学校評価による考察及び2学期の取組

- ・「7 読書が好きだ」と答えた児童は89.0%、保護者は48.5%でした。児童と保護者の回答結果が倍近くあり、意識の相違が見られました。
- ・「8 いろいろな種類の本を読んでいる」と答えた児童は80.3%、保護者は36.1%、「9 お気に入りの本がある」と答えた児童は88.3%、保護者は55.4%という結果からも、読書に関する捉え方は児童と保護者で大きく異なっていることが分かります。読書をする時間が課業中であることが多いのであれば、校内での取組が効果的であったと言えます。児童と保護者が同じ認識をもつことによって、家庭での読書促進につながることから、2学期は、教職員のお勧めの本の紹介や読書時間の設定等、児童が家でも読みたくなるような取組を考えていきます。

2学期も、子供たち、保護者の皆様が充実した学校生活を過ごすことができるよう、いただいたご意見を生かしながら教育活動を工夫し改善を図り、学校の教育目標の実現を目指します。今後とも、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。